

ぶんけい

教育ほっとにゅーす

かわら版

こみち

教育の小径

No.172

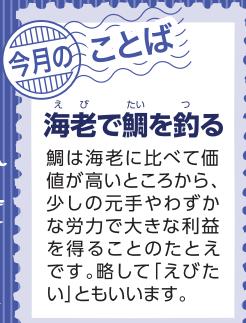
2023 February

2月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



授業とはいかなる営みか

- 授業とは、教師が設定した目標に向かって、教師と子どもたちが一体になって展開される協働的な営みです。どちらか一方だけが行うものではありません。
- 授業をとおして、子ども一人一人がよりよい方向に変容・成長したとき、よい授業が展開されたと評価されます。

「授業」の定義と対象や範囲

「授業」とはその名のとおり「業を授ける」ことです。この場合、「業」とは学問や学業をいいます。戦前は教え授けるという趣旨から「教授」といわれていました。いずれも業を授けたり教えたりするのは教師であると受けとめられ、授業をつくるのは教師だとされてきました。かつての優れた教師とは、学問や技能、技術などを上手に教え導く人（師）でした。

授業は国語科、社会科、算数科、理科などの教科の指導と捉えられがちです。しかし、「授業時数」を表した学校教育法施行規則の「別表」には、道徳科や特別活動、総合的な学習の時間なども含まれています。時間割にあるすべての教科・領域の指導が授業だといえます。清掃や給食などの指導は授業に含まれません。

このように見えてくると、授業の対象や範囲はきわめて広く、子どもの学校生活のほとんどが授業です。毎時間の授業がわかり楽しくなければ、学校生活が楽しいとはいえないでしょう。

また、教師の指導は子どもの学校生活のあらゆる場面に及んでいますから、教師に求められる授業力は、小学校教師の場合、特定の教科だけでなく、

あらゆる教科等の指導力を指しています。その意味で、特に小学校の教師は高度な指導技術と能力が求められている職種だといえるでしょう。

教師は授業力で評価される

授業とは、教師による指導活動と子どもの学習活動を協働して展開しながら、教師の指導目標と子どもの学習課題の両者を実現させていく営みです。例えば講義や解説といった教師の一方的な指導だけでも、また、夏休みの自由研究に代表される子どもの自由な学習だけでも授業は成立しません。

教師と子どもの協働的な営みには、「教材」という媒介が必要です。教師は教材をおいて指導し、一方子どもたちは教材に関わりながら学びます。関わりとは学習活動です。子どもたちは活動をとおして、知識や技能といった学習内容を習得し、その過程において思考力、判断力、表現力などの能力を身につけていきます。教師による一方的な伝達型の授業（例えば講義）では、子どもたちが知識や技能を主体的に学びとることができず、まして能力ははぐくまれません。子どもの主体的な活動が営まれないからです。

授業における活動の主体者（主役）は一人一人の子どもです。すべての

2月
2日

今月の記念日

バスガールの日

大正9年（1920年）のこの日、東京市街自動車の乗合バス（新宿・築地間）に日本初のバスガール（女性車掌）が登場し、業務を開始しました。

子どもが主役になれるよう、教師には授業の設計力と実践力が求められます。

教師だけが際立って目立ち、子どもたちの影が薄い授業は本来求められない授業ではありません。教師の役割は、授業という舞台で誰もが主役を演じができる子どもたちを演出することです。教師は子ども一人一人を生かすディレクター（演出家）です。

よい授業は一朝一夕に展開できるようになりません。演劇と同じことを演じることができます。授業という本番ですべての子どもが主役を演じるためにには、日ごろから、演じ方である教材への関わり方や友だちとの活動の仕方などの学び方をしっかり指導し身につけておく必要があります。これは「訓練する」ことであり、「仕込む」ことです。仕込むには教え慣らす、準備して蓄えておくという意味があります。

授業は子どもたちが主人公として活躍する場であり、子どもの成長の証しが確認できる重要な場でもあります。授業には、予想していない意外性やドラマ性があります。よい授業だったかどうかの評価は、ひとえに子どもたちが授業の場でどのように活動し、どのように変容したかにかかっています。

授業とはいかなる営みなのか。改めて確認してはどうでしょうか。



この道具は昔のものだよ

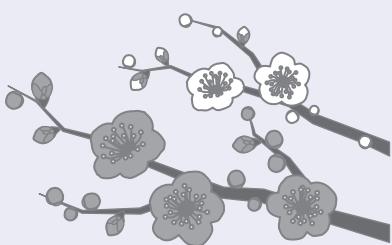
古い道具を調べていたときです。朗さんは見慣れない竿ばかりを見て「このはかりは昔のものだね」といいました。先生は「そうですね」といったままでした。朗さんの発言にどうリアクションするべきだったのでしょうか。

小学校低・中学年の子どもは古いものを見たり接したりすると、すべて「昔のもの」と捉える傾向があります。子どものいう昔とは、いまの現実を除いてすべて過去のこと（もの）です。そこには、「いまと昔」という区別だけで、明確な時間軸がありません。

古い道具調べは3年の社会科で行われます。いまではほとんど使用されていない竿ばかりを見て、子どもが「昔のものだ」と判断したことは当然のことです。ただ、ここでは次のようなリアクションが求められます。

「朗さんは『昔のもの』といいましたが、いつごろのものでしょうか。皆さんのお父さんやお祖父さんが子どものころには使っていたのでしょうか。それとももっと前でしょうか。」

こうした問い合わせをすることで、子どもたちは竿ばかりが使われていた時期を意識するようになります。ここでは、大正、昭和、平成などの元号、西暦○○○○年、いまから○○年前、お祖父さんが子どものころなど、時間のものさし（時間軸）を指導します。



INFORMATION

大好評! 英語 プレミアムAテスト



昨年大好評をいただきました東書版に加えて、
開隆版を新たに発行します!

【価格】3学期制: 320円 2学期制: 470円／東書版・開隆版

特別支援教育とICT活用

文部科学省は『教育の情報化に関する手引』を発行しています。これは、教員や学校、教育委員会が情報教育やICTを活用した指導、ICTの環境整備を行う際に、参考となる情報をとりまとめたものです。

このなかに「教科等の指導における活用」に関連して「特別支援教育におけるICTの活用」について示されています。ここでは、障害のある子どもにとって「インターネットなどのネットワークを介したコミュニケーションやテレビ会議システムなどを介した遠隔交流は大きな意味を持つ」

とし、こうした経験が「将来の自立や社会参加に役立つと考えられ、自立活動で情報機器の活用や情報教育を積極的に進めること」を奨励しています。

また、障害種別ごとに自立活動に応用できる内容が紹介されています。例えば発達障害のある子どもには、ICTの活用による学習支援として、①読み書きに関する場面、②読字や意味把握に困難さがある場合、③書字の困難さがある場合、④一斉学習で教材提供に関する場面など、8つの課題場面ごとに支援策が整理されています。

本書は、特別支援教育におけるICTの効果的な活用の考え方や方法を具体的に示したもので、特別支援学校・学級の教師だけでなく、通常の学級の教師も参考にしたい基本文献です。

北俊夫の「実践と研究」の足あと40

授業研究から学級経営研究へ

授業研究は「授業の事実」にもとづいて授業のよさや課題を検討することです。私は、授業後にコメントなどが求められているとき、授業中必死に授業記録をとってきました。記録することで授業がより深く理解でき、授業のよさや課題がみえています。

授業協議会の場で、参観者から「担任の日ごろの学級経営が基盤になっていますね。子どもたちと担任との良好な信頼関係がつくられていました」といった趣旨のコメントがたびたび出されます。このことは、学習指導案がたとえ立派に作成していても、それをいかに運用し実効性あるものにするかどうかは、授業者の学習指導案の運用力と日ごろの学級経営にかかっているということです。

授業は子どもたちと担任とのあいだで展開される、主として言語活動による協働的な営みです。授業は子どもと教師の双方の関わり合いのなかで展開される共同作品です。授業は子どもたちと教師との良好な信頼関係がなければ成立しない営みだといえます。授業には日ごろの学級経営の成果が強く影響されます。学級経営を疎かにしてよい授業を行うことはできません。

こうした問題意識から、私の関心事は授業研究から学級経営研究にも広がっていました。その成果は『若い先生に伝えたい！ 授業のヒント60』や『こんなときどうする！ 学級担任の危機対応マニュアル』、『保護者と語り合いたい話材50』（いずれも文溪堂）にまとめました。学級経営に関わる課題は、「教育の小径」でもたびたび紹介してきました。

編集後記

2月には節分があります。「魔(ま)を滅(めつ)する」という言葉から、その年が無病息災で過ごせるように豆をまくようになったと言われています。ここ何年かはコロナ禍で、マスク生活を余儀なくされてきましたが、今年こそは学校でもマスクを外してコミュニケーションが取れるような、明るく希望を持って進める年にしたいものです。(Y記)



文溪堂は学校や児童の状況に合わせて、選べる2種類のAテストをラインナップしています。



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2023年2月1日